

## 2023年度開催経営協議会における学外委員からの意見への対応状況

会議開催日	学外委員からの意見	現在までの対応状況等
2023年 4月11日	<p><b>【報告事項】</b> 第3期中期目標期間（2016～2021事業年度）の業務の実績に関する評価結果について</p> <p>第4期中期目標期間から、毎年度の評価を国ではなく各大学で行うことになったが、これは各大学が説明責任を果たさなければいけないということであり、責任が重くなった。今回の評価結果で低評価だった情報セキュリティについては、本学の運営上大変重要な課題であり、より一層レベルを上げる必要がある。</p>	<p>2019度に発生した情報セキュリティマネジメント上の課題への対応として、以下の取組を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワード変更周知</li> <li>• メール自動転送の原則禁止</li> <li>• メール送信制限</li> <li>• 研修の受講</li> <li>• 新システムの検討</li> <li>• ファイル転送システムの導入</li> </ul>
2023年 4月11日	<p><b>【協議事項】</b> 政策研究大学院大学の現状と課題について</p> <p>キャリアが頭打ちになるタイミングが最も職員のやりがいなくなるところだと思う。正規職員から管理職を登用できるよう尽力する必要がある。</p>	<p>2023年11月に2名の正規職員（プロパー職員）を管理職に登用した。2024年8月時点で、管理職（課長・室長）10名中6名がプロパー職員となっている。</p>
2023年 6月26日	<p><b>【協議事項】</b> 大学運営局の人事評価システムについて</p> <p>本学で欠けている要素は、あまり対話がされていないこと。評価より対話によって、その人ができる部分、努力している部分を発見し、認めて活用する、そういった動作を通常業務に埋め込んでいくことが必要ではないか。</p>	<p>2023年度から管理職による部下の期首面談・期中面談を実施し、業務上の目標や達成状況、課題等について対話により相互理解を深められるよう努めている。</p>
2023年 6月26日	<p><b>【協議事項】</b> 大学運営局の人事評価システムについて</p> <p>職員が気持ちよく働けるよう、風通しを良くするために、部下から上司を評価する仕組みを試してはどうか。</p>	<p>2023年度に部下による管理職評価を学長・理事主導で実施し、必要に応じて学長・理事から管理職への結果のフィードバックを行った。</p>
2023年 10月23日	<p><b>【審議事項】</b> 国立大学ガバナンスコード</p> <p>大学のビジョンは、教職員だけでなく学生にも周知する必要がある。</p>	<p>大学の中期目標・計画については、大学HPに掲載し学生を含め広く周知を行っている。また、新たな大学ビジョンの策定に向け、検討に着手している。</p>

会議開催日	学外委員からの意見	現在までの対応状況等
2023年10月23日	<p><b>【協議事項】外部資金の受入れ等について</b>            企業から講師を迎え、海外で社会課題に取り組んだ実例を学ぶ講義は、とてもいい取組みだと思う。ただ、企業は提供する素材は持っていないも講座運営のようなノウハウはないため、企業とともに課題を抽出して授業をコーディネートできる人材が本学にいと、企業も参加しやすいのではないかと。</p>	<p>2024年秋学期に“Selected Topics in Policy Studies(Social issue workshop for business-driven innovation)”を開講、この講義をコーディネートするためアカデミア以外での豊富な経験を持つ非常勤講師を採用している。</p>
2023年10月23日	<p><b>【協議事項】留学生の受入れをめぐる課題について</b>            同窓会の発信機能を強化し、修了生間での交流を活発にするためにも、ポータルサイトなど作ると良い。</p>	<p>2024年3月に、修了生同士や修了生と大学をつなげるため、会員制ポータルサイトを開設した。また2024年4月には修了生間の交流に使用できる場所として、大学キャンパス内に修了生用の部屋を整備した。</p>
2023年10月23日	<p><b>【協議事項】留学生の受入れをめぐる課題について</b>            現地大使館を通して修了生とコンタクトをとることは非常に大切である。修了生が、留学を考えている人に本学を紹介する流れを作れたら非常に強い。例えば各国の日本大使館に本学の修了生の情報を提供して、大使館でのイベントに修了生を呼んでいただけるようにする等の方法が考えられる。</p>	<p>海外出張時に当地の在外公館を訪問し、大使・総領事等と面談して本学の修了生情報を提供する取組について、2024年7月25日の教員懇談会の場で教員への説明及び協力依頼を行った。本件については外務省にも正式に協力を依頼しており、すでいくつかの在外公館からは前向きな反応をもらっている。</p>
2023年10月23日	<p><b>【協議事項】留学生の受入れをめぐる課題について</b>            プログラムの枠を越えて、学生同士が政策テーマで繋がる機会を大学が学生へ意図的に提供できると良い。また、修了生を同窓会という形だけではなく、講師として招聘したり、シニアになってから別のプログラムで再び学んでもらえるようにすることも良いのではないかと。</p>	<p>“GRIPS Forum”や“The World and the SDGs”、上述の“Selected Topics in Policy Studies(Social issue workshop for business-driven innovation)”等をプログラム共有科目として提供し、異なるプログラムの学生がともに学ぶ機会を提供している。            また、本学修了生を対象にSDGs達成に貢献する活動を募集し表彰するGRIPS SDGs Awardsを実施しており、その受賞者をGRIPSフォーラムの特別講師として招聘している。            さらに、修了生に再び学んでもらう機会提供のため、本学修士課程修了者で成績優秀かつ博士課程への進学希望がある者の情報を、本人の同意のもと、奨学金支給機関の一つである国際協力機構（JICA）の奨学金受付担当者に共有し、選考の参考としてもらう取組を試行中である。</p>
2024年2月22日	<p><b>【協議事項】政策研究院の今後のガバナンス強化について</b>            参議の規定化や任期及び年齢制限についての検討が必要である。また、政策研究院における外部資金の受入れに関する規程の整備も必要である。</p>	<p>大学と政策研究院の一体的運営のため、2024年7月1日付で学則等の改正等を行い、参議の規定化、政策研究院に携わる者の任期・年齢制限及び外部資金の受入れに関する規定の整備を行った。一体的運用のため、引き続き、取り組んでいく。</p>
2024年2月22日	<p><b>【協議事項】政策研究院の今後のガバナンス強化について</b>            政策研究院のガバナンス強化のため、経営協議会の関与の仕方や政策研究院運営委員会での決定事項の範囲などのルールを明確にする必要がある。また学長や運営委員会が、政策研究院の研究プロジェクトの内容やメンバーについてしっかり把握し、関与していくことも重要である。</p>	<p>大学と政策研究院の一体的運営のため、2024年7月1日付で学則等の改正等を行い、学長、理事又は副学長、学長が任命する政策研究院業務責任者（本学教員）等を構成員とする政策研究院運営委員会を設置し、政策研究院の運営方針に関し審議することとした。一体的運用のため、引き続き、取り組んでいく。</p>